

# Book Review



月刊「歯界展望」別冊

## ブラキシズムの診断・治療・管理

可視化がもたらす新たな展開

山口泰彦 編著

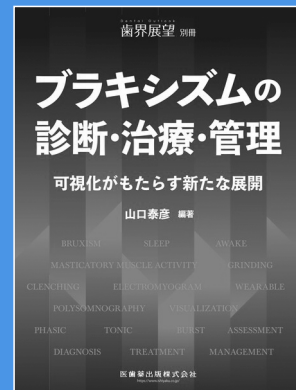


Reviewer

島田 淳 Atsushi Shimada

(東京都・医療法人社団グリーンデンタルクリニック)

A4 判変, 184 頁  
カラー  
定価 7,150 円  
(本体 6,500 円+税 10%)  
医歯薬出版刊



日常の歯科臨床において、歯根破折、修復物の脱離、咬耗、あるいは顎関節症などに直面することは多い。地域のプライマリケアを担う一般開業医にとって、安定した口腔内環境を維持するために「ブラキシズムを含めた力のコントロール」は極めて重要な課題である。しかしこれまで、ブラキシズムの有無を評価する手段は、患者の自己申告や歯の咬耗、歯ぎしり音といった「結果として生じた間接的な事象」から推測するしかなかった。さらに、「咬耗＝ブラキシズム」という単純な図式から安易に口腔内装置が処方され、かえって顎関節症の症状を発症させてしまう本末転倒な事態が生じている症例も散見される。このようなことから、臨床現場で個々の患者のリスクを正確に把握するため、睡眠時ブラキシズムを客観的に確認する手段の確立が急務であった。

本書の編著者である山口泰彦先生は、ブラキシズムの客観的評価と臨床応用の分野において日本を牽引する第一人者である。これまで主観に頼らざるを得なかった診断に、機器を用いた

客観的数値評価を導入し、先生らの長年の研究と尽力により、2020年にはウェアラブル筋電計を用いた「睡眠時歯科筋電図検査」が保険収載されるに至った。これにより、一般の歯科医院でも睡眠中の咀嚼筋活動をRMMA（律動性咀嚼筋活動）の回数やバースト（筋収縮）の強度・持続時間として定量化できるようになった。つまり、歯の破折や顎関節症の発症といった結果をみてから対応する「事後対応」から、事前にハイリスク患者をスクリーニングし「未然にトラブルを防ぐ」という画期的なパラダイムシフトが起きたのである。

本書では、豊富な文献と執筆者の先生方による実験データを基に、ブラキシズムの概念、発現メカニズム、そして為害性といった最新の知見が非常にわかりやすく解説されている。また、ウェアラブル筋電計を軸に、従来の検査法と比較しながらの診察・検査の考え方や、実際の使用時のポイントがQ & A を交えて詳細に説明されており、これから臨床導入を考えている歯科医師にとって心強い手引書となるはずである。

さらに、蓄積されたデータに基づく治療・管理法や、検査結果を実際の治療にどう活かすかという実践的なアプローチに加え、多彩な臨床例も網羅されている。特筆すべきは、本書が単なる「ブラキシズムの解説書」にとどまらず、客観的検査を基盤とした「歯科治療の基本的な考え方と実践」を事細かに説いた一冊であるという点だ。山口先生をはじめとする執筆陣の並々ならぬ熱意が伝わってくる、これまでにない画期的な成書と言える。

これまで私たちは、文献上のデータを頼りに手探りで臨床を行うしかなかった。しかし今は、ウェアラブル筋電計の登場により、目の前の患者の「力」を自らの手で可視化し、検証しながら治療を進めることができる。長年、歯科医療における最大のブラックボックスであった「力の問題」が臨床現場で可視化されたことで、今後の歯科治療は大きく変わっていくに違いない。

一人でも多くの先生方に本書を手にとっていただき、この新しい検査手法を日常臨床に大いに活かしていただきたいと切に願う。